

2021年11月

大学院進学を希望される皆さまへ

北海道大学大学院教育学院長
宮崎 隆志

教育学院に関心をお寄せ下さり、ありがとうございます。

教育学院の前身の教育学研究科は1953年に設置されました。当時は、全国に新設された教育学部の教員を輩出する研究・教育機関としての役割が教育学研究科に期待されていました。今日では研究者・大学教員のみならず、人間発達に関わる多様な領域で研究力量を備えて活躍する専門家を本学院では育成しています。

研究力量は今や社会のあらゆる領域で求められています。かつては、大学のような研究機関が生み出した理論を産業などの実践の場に普及することによって、問題解決や機能改善が可能になると理解されていました。しかし、今日では個々の実践現場において、省察と探求を通して生み出される新たな知が問題解決にとってより重要であることが確認されるようになり、その知を高度化する仕組みを築くことが課題になっています。

教育は、この傾向が明瞭な領域の一つです。転換期としての現代は、ときに「正解のない時代」ともいわれますが、ここに至り伝達形式の教育実践の限界が明らかになり、教育者自身が学び続けることが必須になっています。また種々の自立支援に関わる実践においても、「当事者研究」の重要性が確認されています。すなわち、誰もがそれぞれの現場において研究を行い学び合うことにより、未来を拓く新たな知の創造が可能になることが確認されてきています。

このような時代の大学および大学院は、学問探究の場であることに変わりはないものの、あらゆる領域で実践的・理論的な探究を進める人々との共同探求の場であるといえるでしょう。大学院で学ぶということは、新たな知を産出すべく創造的な挑戦を続ける人々との協働に加わることであり、その協働を更に推進するための専門的な力量を獲得することに他なりません。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って生じた社会現象は、現代社会の限界を露呈させました。教育学研究に携わる私たちには、「人が育つ」という共通関心に立脚して、その限界の先にある世界を見通す責任があります。そのためには、世界中に広がる多くの研究仲間との協働、そして実践の現場で現代の限界線に挑んでいる実践者との協働が不可欠です。

皆さんが、この課題と責任を共有し、学問をもって現代社会の要請に応える努力を私たちとともに進めてくださることを心から期待いたします。

以上